資　料　２－１

港湾事業　再評価（要点審議事業）

能代港　外港地区防波堤整備事業

平成27年10月16日
国土交通省　東北地方整備局

事業名	能代港　外港地区防波堤整備事業	事業種別	防波堤事業

事業の目的

能代港外港地区に防波堤を整備し、港内静穏度を向上させることで、荷役作業の安定化を図り、港湾利用企業の物流効率化を図る。

事業の概要

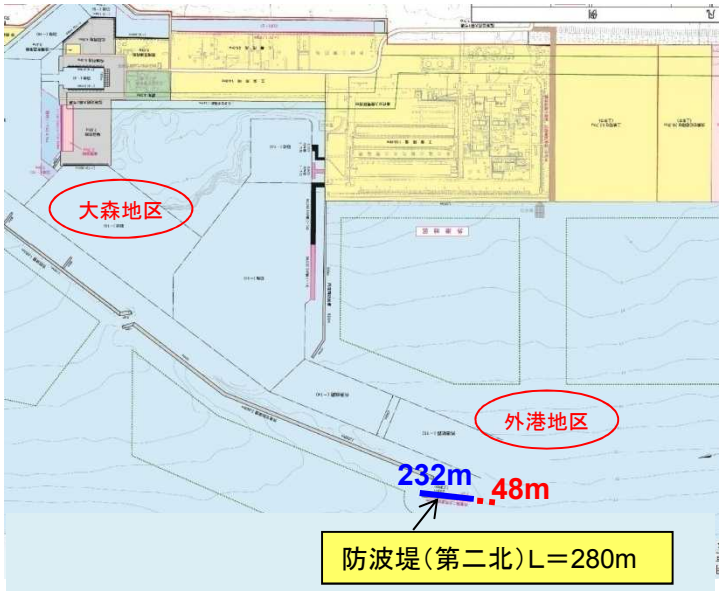
港名	能代港	港格	重要港湾
対象施設	防波堤（第二北）	280m	
事 業 化	平成12年度		

今回評価（H27）			前回評価（H24）	
全体事業費	執行額（H27年度末迄）	進捗率	全体事業費	進捗率
80億円	75億円	93%	80億円	75%

【事業実施位置図】

再評価実施後3年経過





※　H27年度末　整備済：——
整備未了：……

1. 事業の必要性に関する視点

◆能代港では製材や土木資材（砂・砂利）、融雪材の材料となる原塩を取り扱っているが、大森地区岸壁（−13m）は静穏度が不足しているため荷役障害や沖待ちが発生している。
◆能代港で荷役された原塩は、秋田県のほか岩手・青森県で使用される融雪剤として使用されており、積雪・寒冷地の安心・安全な生活を支える一助となっている。
◆防波堤整備により、安全な荷役を確保し、地域の産業や生活を支える物資の効率的な輸送を確保する。



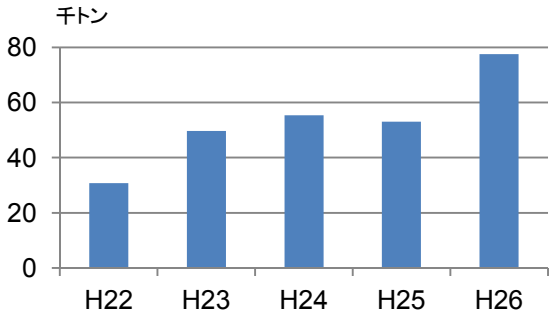


▲大森地区岸壁（-13m）荷役状況

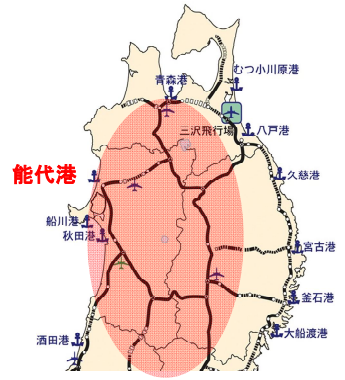




▲荷役状況（原塩）



▲原塩取扱量の推移



能代港で荷揚された原塩により融雪されているエリア

[港運会社の声]
・うねりにより、船舶が動揺する場合、荷役を中断せざるを得ない。
・荷役が長時間になると費用が多くかかる。
[荷主企業の声]
・能代港を利用することで、大量一括輸送が可能となり、輸送コストの低減が図られている。

2. 前回評価との主な相違点

①事業費の変更 → 変更無し

単位：億円

施設名等	前回評価（H24）	今回評価（H27）	備考
防波堤（第二北）	80	80	

②便益の変更 → 無し

項目			前回評価（H24）	今回評価（H27）	備考
輸送便益	静穏度向上による輸送の効率化	砂利・砂・石材	16万トン	16万トン	背後企業へのヒアリングにより、貨物需要の変更無し
		石炭灰	12万トン	12万トン	
		石灰石	7万トン	7万トン	
		製材・原木	6万トン	6万トン	
		原塩	3万トン	3万トン	
		その他	1万トン	1万トン	
		合　計	45万トン	45万トン	

③完成予定

事業期間　H12～H28　　→　　H12～H30

東日本大震災からの復旧・復興工事に伴い作業船等が逼迫しているため、事業期間を2年延長する。

④前回評価における費用便益分析（B/C）

事業全体	1.3
残事業	3.6

※前回評価時から残事業の便益対象貨物量に変更が生じていないことから、残事業に関する新たな費用便益分析は行わない。

3.対応方針

○ 原案　事業継続

（理由）事業の投資効果が認められ、地元要望も強いため。